

江戸名所品川

品川宿の四季

江戸時代の品川は東海道第一の宿場として旅人や送迎の人びとでにぎわう一方、江戸郊外の遊興の拠点としても昼夜を問わず活気を見せていた。眼前に広がる海と白帆の織りなす風景が人気を呼び、旅人ならずとも江戸市中から訪れては江戸前の新鮮な魚介類の料理に舌鼓を打ち、茶屋の二階座敷から遠くかすむ房総の山並みを眺めながら遊びに興じたものであった。

また、品川は四季折々に風情が楽しめる風光明媚な地としても有名であった。その様子は浮世絵の格好の題材となり、歌川広重や葛飾北斎をはじめ多くの絵師によって描かれている。

御殿山は寛文年間、奈良吉野山の桜を移植したと伝えられ、以後桜の名所として多くの花見客で賑わった。また、品川の海は遠浅であり、年中行事として盛んに行われた潮干狩りの時に人であふれた。夏の二十六夜待は、7月26日の夜半、月光に阿弥陀・観音・勢至の三尊の姿が現れるという言い伝えから、月の出を待つ行事で、特に高輪から品川にかけての人出が多く、船を浮かべて飲食する姿もみられた。秋には江戸第一といわれた海晏寺の紅葉狩、また冬の海で行われる海苔採りの風景も名所絵として数多く描かれている。

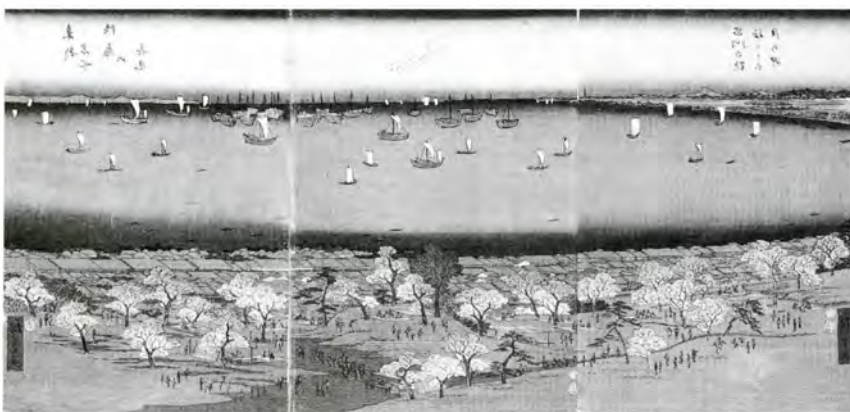


▲東都名所品川絵柄の浴衣（復元）

型彫：増井一平 型付：小宮康正 藍染：山井武之

江戸時代後期には、隅田川・飛鳥山花見・江戸城など江戸の名所を題材にした浴衣が作られた。この東都名所の浴衣もその一つで、絵柄には江戸湾の新鮮な魚介類が名産であった品川の洲崎や芝浦が描かれている。これは木綿の生地を長い板に張りつけ、型紙を使い防染の糊を置き、藍に浸し染めをする「長板中型」の手法によるものである。表面のみ型染めする小紋とは

異なり、模様づけが裏表にぴったり重なり合うように染められているのが特徴である。型紙彫刻・型付け・藍染の三者分業による技法は、明治時代末期に衰退したが、昭和30年（1955）、松原定吉・清水幸太郎両氏が重要無形文化財保持者に認定され、今日に受け継がれている。



▲東都名所 御殿山花見 品川の駅 袖かうら 月の岬

歌川広重〈初代〉

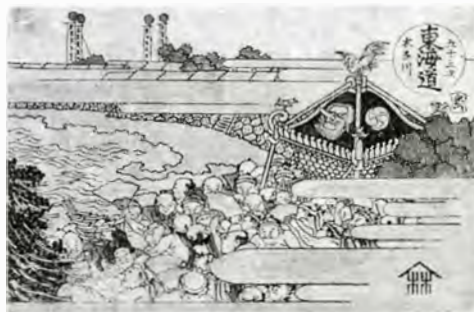
江戸時代の品川歳時記（旧暦表示）

正月 1 日	稲荷社（現、品川神社）、貴船社（現、荏原神社）ほか 宿内神社 仏閣の参詣
2 月初午、二午 立春から65日目より 70日目より	江戸中稲荷祭。宿内稲荷賑わう 一重桜（景物） 品川御殿山、東海寺、西光寺、光福寺 八重桜（景物） 品川御殿山、東海寺、西光寺、光福寺、 来福寺、浄蓮寺（常林寺か）
3 月 3 日 3 月13日 3 月28日 この月 この頃	女子雛遊び。この頃、潮干 南品川海徳寺淡島祭（9 月 1 日） 南品川海雲寺千駄荒神祭礼（11月28日） 東海寺塔頭小林院利休忌 品川寺六地藏尊品川観音堂縁日 春鱈釣り
4 月17日 4 月25日	東海寺鎮守牛頭天王（現、品川神社）太々神楽挙行 大國魂神社、貴船明神社（現、荏原神社）にて潮汲祭
5 月24日 この頃	鈴ヶ森の厄神大権現（現、浜川神社）で厄神祭 船遊山。品川の有名な船宿「伊勢屋」
6 月 7 日～19日	品川宿牛頭天王祭（現、荏原神社・品川神社）
7 月13日～16日 盆 7 月16日 7 月26日 この月	宿内草市で求めた盆灯籠を携えて参詣。迎え日 南品川長徳寺閻魔参り 二十六夜待 月（景物）。宿内各寺施餓鬼会
8 月 7 日 8 月15日 8 月28日	宿内食売旅籠屋にて弾正日待 十五夜 浅草海苔、品川から大森の海岸にて粗朶 ^{そだ} を立てる
9 月13日 9 月25日 9 月27日 9 月30日	十三夜 品川歩行新宿法禅寺円光大師御忌。参詣多し 南品川妙国寺仁王尊祭礼、音楽、稚児供養あり 賀茂真淵大人遠忌、歌人集合して詠歌の筵を開く
10 月 6 日～15日 この月	南品川願行寺、十日十夜法要 紅楓（景物） 東海寺 海徳寺・本光寺など御会式 鯨洲海晏寺、蛇腹紅葉・千貫紅葉・花紅葉・浅黄紅葉・ 韭梅紅葉・猩々紅葉の名がある
11 月13日 11 月酉の市 この頃	鞠祭、鍛冶屋の祭り 酉の市 新酒品川沖に着く。品川沖はぜ釣り 看雪（景物） 大井八景坂
12 月11日 12 月22日 12 月晦日	東海寺開山忌 門松、宮、三方などの他勝手道具、羽子板などの飾り 物市が立つ 年越し

※『品川町史中巻』『品川遊廓史考』『品川の民俗と文化』等を参考に作成しました。



▲品川汐干 歌川広重(初代)



▲東海道五十三次二 しな川 葛飾北斎



▲東都名所海案寺紅葉ノ図 歌川広重(初代)



▲勝景雪月花 東都品川の雪 葛飾北斎